

令和5年度 第3回 宇部市地域自立支援協議会 会議録

日 時:令和5年12月12日(火) 19:00~20:30

場 所:宇部市役所 3-3 会議室

出席者:委員 14名、欠席者 4名、市 9名

1 議事

(1) 第五次宇部市障害者福祉計画、第7期宇部市障害福祉計画及び第3期宇部市障害児福祉計画の素案について (資料1)

■意見、質疑応答等

・障害福祉アンケートについて、6年前と比較して、障害があることに対する周囲に理解されていると感じる人の割合が減少しているが、実感としてピンとこない。個人的なイメージだが、理解がすすむにつれて、期待や目指すところが高くなってきており、理解されていると実感できる割合が低くなっているのではないだろうか。昔と比べ、障害福祉施策の内容は充実してきており、障害への理解が深まっているように思える。

・毎年4月の発達障害の啓発週間で、小学校等で発達障害に関する理解促進のチラシを配布されており、保護者が必ず目にしていないと思うが、知識としてはあるが、中々その知識だけで理解まで達していないと感じる。学校や施設でも、研修は行われているが、学校の先生や、専門職でさえも理解してもらえないという声を聞いている。

・保護者の方の話聞く機会があったが、自分の子どもと他の子どもを比べてしまったり、母親は理解があっても父親は理解がなく、夫婦でずれがある結果ワンオペになるなど、受け止め方や理解の度合いが違うこともある。理解の仕方など市の方で発信できる場があればいいと思う。

・知識はあるのに「治らないからもうだめだ」というように諦める人もいる。対応の仕方や治療によって進行を緩やかにしたり、進行したとしてもその人らしい暮らしを保つ方法を考えていくべき

・総合支援学校卒業時に関係機関につないでから卒業するという形にはなるが、本当に困った時の相談先が必要だと思う。

・就労では親の思いが強く、一刻も早く就労してお金を稼いでほしいという声もある。就労移行支援やB型はお金を稼ぐ目的で利用するサービスではないため、利用すべきではないという雰囲気もある。そういった声を踏まえて就労選択支援というのが始まるのだと思う。B型からの一般就労というのは数値目標を立てる必要があるのかと思う。事業所としては、一般就労に移行させれば加算があるので一般就労をさせるが、そもそもサー

ビスの目的が違う。B型は一般就労を目指すものではなく、一般就労やA型で難しい人の受け皿として機能しているものとなる。ここで目標値をつくってしまうと、それをしないといけないという風になるのではないか。

・行政としては数値目標について見える化するということで書いているのだと思う。この前会議に出た時に、フリースクールに通われている子どもの保護者から「働かないといけないのか」という話を聞いた。就労も大切だが、働いてお金を稼げなくても、趣味や芸術など、いろんな分野で、その子が幸せ感を感じることができる居場所づくりがあっても良いのではないか。

・成年後見人制度について、障害があってもお金がない方が多く、申立ができない方が多い。利用すれば後見人への報酬も必要なため、お断りするケースが増えている。お金がない人にどう支援をしていくかというのが課題になっている。成年後見人の報酬が、家庭裁判所に申し立てをして、年に1回しか報酬が出ないため、その辺は行政に柔軟に対応してほしい。

(2) 専門部会等の設置について（資料2）

■意見、質疑応答等

・専門部会の参加者について、相談支援は原則、全事業所参加になっているが、他はそうっていない。他の専門部会も原則、全事業所参加にしたほうが、もっとつながりができていいのではないか。

⇒相談支援は、事業所も少なく、支援の要となるところなので、原則、全事業所参加としている。他の専門部会についても、全事業所に参加していただきたいところだが、毎回、出欠をとり、最初は半分も満たなかったが、今は多くの方に来ていただいている。なるべく、たくさんの方に参加していただきたいが、強制は難しいと思う。

・地域生活のところで、地域の代表者の方が入っていないが、なにか事情があるのか。
⇒いま時点は、実際の障害サービスでの困りごとの事例を集めているところで、内容により、施設の方、グループホームの方、病院の方、訪問看護の方など、いろいろな方に来て頂いている。まず、何に困っているのか、というところを集めている。範囲が広すぎるので、部会の下にワーキングチーム等を設置し、そこに地域の方や、家族の方、当事者の方に入っていただくことも、今後検討していきたい。

(3) その他

・特になし

以上